

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
教育心理学 Educational Psychology		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(教職課程必修(幼稚園教諭二種))	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
発達心理学 I、幼児心理学				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士養成課程科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
秋山真奈美	講義棟3階	火・土・授業時間を除く		授業中に指示します
授業の概要				
本講義では、保育者を志す学生が、幼児の発達や学習能力を踏まえた支援ができることを目指し、教育を行う場合に心得ておくべき「学習」「知能」やその「評価」法、そして行動の原動力となる「欲求」について学んでいく。また、発達の遅れがある事例や特別な支援を必要とする事例への対応に関する考え方や具体的手法を学ぶ。				
授業の目標				
①幼児独特の心身の発達特徴を踏まえた上で、“ちょうどよい”、“幼児の主体性を尊重した”学習支援をするための指導の基礎となる考え方を理解し、説明できるようになる。 ②人間行動の心理的メカニズムの過程を説明する各種学習理論を学び、実際場面に汎用できるようになる。 ③教育効果を見据えた働きかけについて、客観的な立案や評価ができるようにする。				
授業の方法				
視覚教材、プリント等も活用しながら講義形式にて実施する。アクティヴ・ラーニングを行う側・仕掛ける側両方の知見を得るためのディスカッションを含む。単元の終了ごとに小テストを行う。 好ましいレポートや論述試験解答の書き方および評価の基準・観点は、初回オリエンテーション時に具体的に指導する。				
学習の成果(学習成果)				
(1) 発達と学習および行動の心理学的メカニズムを説明でき、対象(主に幼児・児童)の学習支援に応用できる。 (2) 対象の状態に応じた教育効果を客観的に見据えた対応を想定し、記述できる。 (3) アクティヴ・ラーニングを主客両方の立場から実践できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション：授業の方法と計画の説明 保育と教育心理学 保育者に求められていること 幼児の発達と学習課題			
第2回目	学ぶとは：学習の基礎理念 条件づけ 基本的生活習慣をシェイピングする			
第3回目	賞罰の功罪：学習過程中的賞罰の功罪について(※ディスカッション→発表)			
第4回目	学習の方法・学習指導法の現在：幼児期における概念学習、運動学習、言語学習			
第5回目	学習の方法・学習指導法の現在：幼児期におけるプログラム学習、発見学習、観察学習、グループ学習、オープンクラス			
第6回目	学習の方法・学習指導法の現在：発達の最近接領域と学習支援 状況から学ぶ アクティヴ・ラーニング			

第7回目	学習の方法・学習指導法の現在：早期教育とは 幼児期におけるコンピュータ教育の功罪	
第8回目	学習理論の心理学的応用：行動療法の基礎理論と学習支援・適応援助への応用	
第9回目	学習と教育：行動療法の障害児教育への応用 映像資料視聴 (→※次週レポート提出)	
第10回目	学習の動機づけ：欲求と動機づけ 学ぶ心を育てるために 学習された無力感 適性処遇交互作用	
第11回目	学ぶ意欲と耐性：幼児の成長欲求の発達 欲求不満耐性を育てるには	
第12回目	考えることと創造すること：幼児の思考の在り方 知能とは 知能の発達とその評価 創造性と人間性の発達	
第13回目	記憶：記憶のしくみと役割 記憶の発達 幼児期健忘	
第14回目	集団からの学びと集団の学び 協同学習	
第15回目	学習評価 何のために評価するのか アセスメントと発達支援 関わりの中からの理解	
事前・事後学習	事前学習として教科書を読み込んでおく。返却された小テストをヒントに論述試験対策を練ることを事後学習とする。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	講話を集中して聴き、板書した内容だけでなく、重要だと判断したことは主体的にノートに書き取ること。ディスカッション時の積極的な協議姿勢、発表時の質問などは高く評価する。
レポート	20%	授業中に視聴した映像資料の感想文を、翌週提出してもらう。感想文とはいえ、教育者としての視点および行動療法的観点からの考察を重視する。
調査報告書		
小テスト	5%	単元終了毎に、その翌週の授業冒頭で実施する。日常の努力点として勘案する。小テストを復習すれば、学年末試験での成果が期待できるしくみである。
試験	60%	学期末に論述試験を実施。授業の目標が反映された、設問への妥当な回答がなされていることを評価する。このため具体的な事象・事例の記述や多角的な視点からの考察はおおいに加点の対象になる。
発表内容（態度含む）	5%	グループディスカッションの結果を報告してもらう際には、内容及びプレゼンテーションの巧緻を評価する。聴講者を惹きつける相互作用的なプレゼンテーションが理想的である。
その他		
教科書と参考図書		
教科書：『新版 保育のための教育心理学』坂原明〔編〕（おうふう）。参考書・資料は「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」文部科学省他、多数。各授業にて随時紹介する。		
履修上の留意点・ルール		
講義はもとより、ディスカッションや教育実験に対して主体的且つ真剣に取り組むことを期待する。私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は「授業参加態度」において減点の対象とする。教育を志す者として、真剣に受講すること。		